Open Campus ~財務総研の研究・交流活動紹介~

国際交流課(室)30周年-これまでの歩み

財務総合政策研究所 国際交流課長 中川 健太郎

中国研究会の取組み

財務総合政策研究所 総務研究部 国際交流課 研究官 中島 賢作/ 同上席研究員 金井 優洋/同研究員 横山 日向子/同係員 岩崎 智亮

都市経済ワークショップの開催

財務総合政策研究所 主任研究官 曽我 奈津子/同研究所 研究員 玄馬 宏祐

国際交流課(室)30周年 - これまでの歩み

本年(2022年)7月、国際交流課(室)が発足し て30周年を迎えます。1992年7月、財務総合政策研 究所の前身である財政金融研究所内*1に国際交流室が 発足し、2015年5月の機構改正により国際交流課と 名称変更され、現在に至ります。

その間、アジア各国に対する知的支援や、海外研究 機関との研究交流を通じて、アジア各国の関係者との 国際交流を行ってきました。

発足当初、米国に次ぐ経済大国となった日本につい て、アジア各国から、その成長過程・要因等を学び、 自国の経済成長につなげたいとの要望が多くありまし た。その要望に応えるべく、アジアを中心とした途上 国の財務省等の若手幹部候補生を約3カ月間日本に受 け入れ、わが国の財政・経済制度に関する知識・経験 の提供による人材育成支援や、国際的な人的ネット ワークの形成等を目的とした「財政金融長期セミナー」 を1992年に開始しました*2。その後、本セミナーは対 象国の拡大や研修期間の変更等を経て、現在は「財政 経済セミナー」として継続しています。

加えて、アジア各国の財務省・中央銀行職員や研究 所の研究者等を、研究員として受け入れ、研究を支援 するとともに、受け入れた研究員が所属する組織等と の情報交換や交流を深めてきました。

研究員として受け入れた方々とは、その後も折に触 れて意見交換等を行っています。その方々が後に各国 政府や研究所等で我々のカウンターパートとなって共 に働くことになることもあり、そうしたことも国際交



流業務の醍醐味の1つです。

また、個別国への取組みとして、中国については、 1992年以降、社会主義市場経済体制の確立を目指し て大きく改革開放へと舵を切ろうとしていく中、中国 の政治経済情勢について調査研究することを目的とし て、1993年度に「中国研究会」を立ち上げました。 同研究会の活動については、國分良成座長へのインタ ビュー (別掲) をご覧いただければと思いますが、研 究会で交わされた議論を踏まえながら、中国の政府系 シンクタンクとの対話・交流も行っています。

2000年代(発足後約10年)には、中小企業等の育 成を目的とする政府系金融機関を設立した東南アジア の国々に焦点を当て、まずベトナム社会政策銀行 (VBSP) に対する中小企業金融への知的支援を、日本 政策金融公庫と連携して開始しました。これまで、マ レーシア中小企業銀行、ラオス開発銀行、ミャンマー 経済銀行に対しても同様の知的支援を実施しており、 その後の意見交換会等によるフォローアップを通じて、 関係者との交流維持や現状把握を行ってきています。

2010年代(発足後約20年)には、インドが積極的 なFTAの締結など対外的な開放政策を進め、更なる

^{*1) 2000}年7月、財務総合政策研究所に機構改正。 *2) 第一・二回は、JICA(国際協力事業団)との共催。

市場開放や経済成長への期待など、インドに対する強 い関心が生じた背景のもと、2011年に「インドワー クショップ」を、また2015年にASEAN経済共同体 を発足するなど地域的な枠組みが形成されるととも に、経済成長も含めてASEANの地政学的な重要性が 増したことに伴い、2016年に「ASEANワークショッ プ」を開始しました*3。

また、インドやASEANの研究所との交流が始まっ たのもこの頃です。インドについては、インド国際経 済関係研究所、インド応用経済研究所との交流を、 ASEANについては、ベトナム財政研究所、タイ財務 政策研究所などとの交流を続けています。

このように、時世に応じたアジア各国への関心度合 や重要性を勘案しつつ、国際交流課(室)の特性を活 かしながら活動を行ってきました。2020年代に入り、 コロナの影響により、対面での国際交流は行うのが難 しい状況になっていますが、ウェブを活用したミー ティング、ワークショップ、セミナーなどを通じて、 関係者との国際交流を行ってきました。今後は、対面 とウェブの双方のメリットを活かしながら、国際交流 活動を行っていきたいと考えております。

国際交流課(室)30周年への回想・祝辞メッ セージ(抜粋)

- (1) [Sanjana Joshi^(*), Senior Consultant, ICRIER(インド国際経済関係研究所)】
- (※) 当研究所との交流開始当初(2009年)よりICRIERの窓口担 当者としての交流を継続。

(概要仮訳)

・我々ICRIERとは長い間の価値ある関係を 持っており、インドと日本の経済状況の相互 理解などにも貢献しています。

・10年以上もの充実した旅を共に続けており、 我々の協力についての覚書 (MOU) を最近 更新したことを喜ばしく思います。

(原文ママ)

We at ICRIER greatly value our long-standing relationship with the Policy Research Institute, Ministry of Finance, Japan and feel that our regular interactions have contributed significantly to deepening mutual understanding of the economic trends in both our countries as well as facilitating policy-oriented dialogue between well-known experts from India and Japan on harnessing the opportunities and resolving the challenges in bilateral economic relations. The partnership is now over ten years old.

It has been a wonderful and enriching journey together and we are delighted that our two institutions have recently renewed the Memorandum of Understanding for research collaboration and cooperation.

As PRI celebrates its 30th anniversary our heartfelt congratulations on this special occasion and best wishes for even more success in the coming years.

(2)【VBSP(ベトナム社会政策銀行)(*)】

(※) 財務総研は、2003年から2011年にかけて、当行を対象に中 小企業金融に関する技術協力を実施。2021年には、オンライ ンでの意見交換を行うなど交流を継続。

(参考) 各国・地域のGDPの推移(単位:億USドル、2015年USドルベース)

	1980年	年換算成長率※3	1990年	年換算成長率	2000年	年換算成長率	2010年	年換算成長率	2020年
世界全体	262,252	+ 3.2%	358,473	+ 3.0%	481,467	+ 3.0%	647,031	+2.4%	818,253
米国	70,763	+ 3.3%	98,048	+ 3.4%	137,382	+ 1.7%	163,201	+ 1.7%	192,945
日本	22,597	+ 4.5%	35,202	+ 1.3%	39,868	+ 0.6%	42,189	+ 0.4%	43,808
中国	4,228	+9.3%	10,274	+10.4%	27,701	+10.6%	75,541	+6.8%	146,318
インド	2,709	+ 5.6%	4,652	+ 5.6%	8,005	+6.7%	15,359	+ 5.0%	25,001
ASEAN4ヵ国 ^{※1}	3,573	+ 5.2%	5,957	+4.3%	9,075	+4.9%	14,661	+4.0%	21,627
CLMV*2					1,019	+7.7%	2,133	+6.1%	3,865

出所:世銀データバンク

- ※1 インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシアの合計※2 カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムの合計※3 期間10年の年換算成長率(筆者試算)

[「]インドワークショップ」、「ASEANワークショップ」については2022年5月号(インドワークショップ:https://www.mof.go.jp/pri/research/ conference/indiaws/indiaws2021.html、ASEANワークショップ:https://www.mof.go.jp/pri/research/conference/fy2021/asean2021. html) 参照。

(概要)

- 財務総研が日本政策金融公庫(当時の国民生 活金融公庫)と連携して行った当行に対する 技術協力によって、当行は小規模企業に対す る信用分析やスタッフの育成方法などの知見 を頂きました。
- ・この技術協力は2011年以降も当行の成長に 貢献しており、当行の顧客は2021年で約 640万先となります。信用分析の資料は、職 員の知見の改善、特に小規模企業や新規開業 した企業の分析になじみのない職員の知見向 上に寄与しました。その結果、与信の質は大 きく改善され、設立時に13.75%であったデ フォルト率は1%未満にまで減少しました。

From 2003 to 2011, PRI and JFC-Micro provided seminars to transfer the know-how on developing training materials and training the trainers regarding credit analysis methods of small businesses for enhancement of VBSP training staff ability, etc.

. . .

Since 2011, the technical cooperation of the PRI and JFC-micro has contributed to keeping the growth rate of policy credit resources reaching an average of 10%/year.

Total outstanding loans of credit programs increased by 2.5 times, from VND 89,462 billion in 2010 to VND 256,964 billion estimated at 31/12/2021, with nearly 6.4 million active customers, of which loans for ethnic minorities and mountainous households are over VND 56,000 billion (accounting for 25% of total outstanding loans) . Policy credit quality has been constantly improved, the overdue debt ratio of the whole system is always much lower than the target of the Development Strategy. By the end of 2021, overdue and frozen debts account for less than 1%/total outstanding loans.

The "Credit Analysis Material set" has contributed to improving the knowledge and experiences of staff, especially new staff regarding credit analysis of small businesses and newly established enterprises for loan schemes in general and the job creation loan scheme, the loan for business households in vulnerable areas in particular. Therefore, the credit quality has improved considerably with the default rate decreasing from 13.75% at the establishment timepoint to less than 1% over the total loan portfolio in 2022.

(3)【孫雄基 駐日大韓民国大使館 参事官(財政経済 官)(客員研究員(2011年))]

客員研究員として在席していた2011年当時、 東日本大震災を国際交流室の職員たちと一緒に経 験しました。その後、日本で「絆」という言葉が 一層特別になったことを覚えています。当時、国 際交流室の職員たちと同じ時空間で痛みと喜びを 共有したことで、より深い絆や繋がりが形成さ れ、それが、私がまた日本に来て働く原動力に なったと思います。

財務省、国際交流室の方々の温かく細心なご支 援は今でも忘れられません。勉強会、セミナー、 お昼、飲み会などの交流を通じて、本と資料では 得られない、お互いへの見識を持つことができた と思います。

最近、コロナ下においてのオンラインコミュニ ケーションにもメリットはありますが、より深い 繋がりができる人的交流が、一日も早く活性化さ れることを心より願っております。

(4) [Fozia Aftab Dy. Chief, M/o Planning, Development & Special Initiatives, Pakistan (財政経済セミナー参加者) (2015年)】

(概要仮訳)

- ・2015年に財政経済セミナーに参加し、すば らしい経験をしました。
- ・日本の文化・生活なども経験でき、この経験 が筑波大学で修士を取得する動機を与えてく れました。
- ・こういった新興国に対する機会の提供をこれ からも行っていただきたいです。

(原文ママ)

I attended the Public Policy Seminar at Policy Research Institute in 2015. PRI offers a Unique experience by bringing together the public sector professionals and policy practitioners from developing and emerging economies in the region and exchange their respective experiences and learn lessons from each other. This visit further offers us the opportunity to gain some experience of Japanese culture, language and lifestyle. I quite vividly remember and cherish the pleasant memories of my visit.

I would like to mention that this experience inspired me to get some more Japanese cultural experience and motivated me to pursue my master's degree at the University of Tsukuba, which I completed in 2019.

I look forward to more such opportunities offered by PRI for the public policy practitioners from developing countries in the future.

(5) [Ms. Fariza Abduova, Senior expert, International Financial Relations Department, MoF, the Republic of Kazakhstan(中央アジア・コーカサス・セミ ナー参加者(2019年)】

(概要仮訳)

・このセミナーで学んだ日本の知識と経験は、 我々の国が次のステージに行くための財政・ 経済改革を促進する手助けとなり、感謝して います。

(原文ママ)

Happy 30th Anniversary of the Policy Research Institute under the Ministry of Finance of Japan! This is indeed a milestone to celebrate!

In 2019 I had a great opportunity to participate in the Seminar for Central Asian and Caucasian Countries. I am sure it was a very interesting and useful seminar for all of the participants. We had a chance to be familiar with the Japanese fiscal-budget system, tax and customs system, pension system, etc., to discuss on economic challenges of Central Asian and Caucasian Countries.

I am grateful to the PRI for organizing such kind of seminars to assist fiscal and economic reforms in developing countries like Kazakhstan. It helps us, participants, to understand better where we should go next to improve our reforms by learning Japan's knowledge and experience.

I would like to take this opportunity to thank the staff of the PRI, Ministry of Finance of Japan.

Wish the PRI further success in its activity.

(6) [K R Gangadara, Senior Consultant, Sri Lanka Institute of Development Administration, Ministry of Public Services, Provincial Councils and Local Government, Sri Lanka (財政経済セミナー 参加者)(2015年)]

(概要仮訳)

- ・財政経済セミナーは、私の人生の中でこれま でにない研修の機会でした。
- ・セミナーで得た知見や、それに伴う自信によ り、帰国後にキャリアアップして貴重なポス トにつくことができました。
- ・財政経済セミナーは新興国に対する日本の素 晴らしい投資であり、経済発展に貢献した

い、将来若手を教え導きたい、自らが成長し たい若手公共経済専門家に参加を強く勧めた いです。

(原文ママ)

The Seminar for Economic Policies conducted by Policy Research Institute (PRI), Japan Ministry of Finance is truly an exceptional learning journey all-time in my life. It exemplifies the true meaning of Seminar Fellowship, not only from an academic perspective but even more so from the hands-on learning experience, provided with the skills and tools to raise me above the din. A lifetime of networking is consolidated in just a month. This in and of itself makes the Seminar priceless.

The knowledge acquired, the skills learned, and the confidence inculcated has provided me with exciting prospects to give back to the Sri Lankan public sector and enhance my career. I have had the privilege of serving on several high-level committees and, especially being the Secretary to the Presidential Task Force for Utilizing Geological Resources for Development, which is a rare opportunity for a public officer to have; thanks the competencies improved by the Seminar.

The academic content is stimulating and interesting. The exposure to public, private, and government leaders at the national, prefecture, and community levels is outstanding. The interdisciplinary approach taken by the Seminar is a valuable model well suited to address the challenging economic issues in our countries, especially when it learns the history of Japanese economic development and listens to many storytellings. This approach helps us understand common development pitfalls in our communities.

I believe Seminar for Economic Policies is a great investment of the people of Japan granted for the entire emerging world, and I strong-

ly recommend all young public economists who want to contribute to their countries'economic development, who want to further enlighten their fellow man, and who want to experience personal growth, to apply to the Seminar. It can be the beginning of a wondrous journey. I congratulate the cheery 30th foundation anniversary of the International Corporation Division in PRI.

プロフィール・

財務総合政策研究所 国際交流課長 中川 健太郎

2000年関東財務局入局。財務省では、国際局、総 合政策課で勤務経験あり。前職は金融庁で地域金融 機関関連業務を行い、2021年7月から財務総研で 国際交流課長として勤務しています。